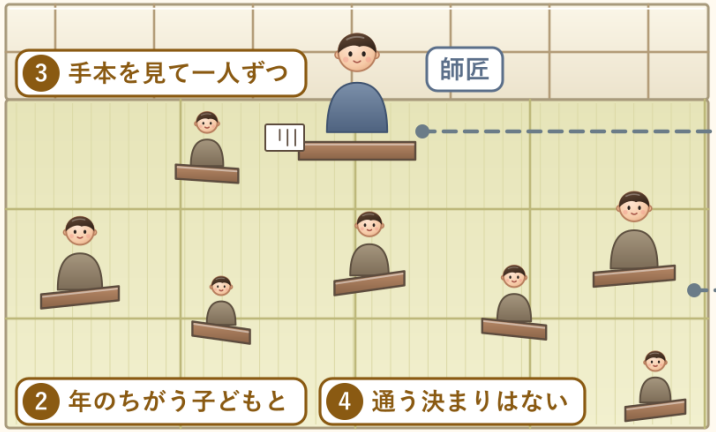
寺子屋で学んだ子どもたち（今の学校とくらべて）

江戸時代の子どもは、何をどのように学んだか。今の学校と何が同じで何が違うか。

寺子屋（江戸時代。模式）



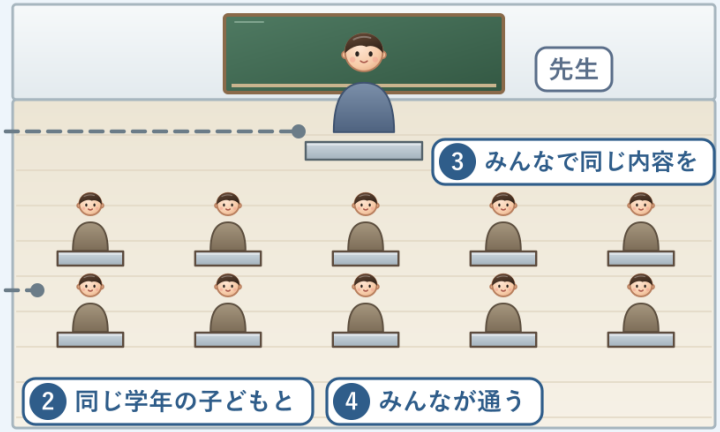
1 いろは 筆・すずり・手本

同じもの

（名前や形は違う）

- 教える人
- 学ぶ子ども
- 学ぶ道具

今の学校の教室（一例。模式）



1 えんぴつ・ノート・タブレット

1 何を学ぶか

寺子屋：読み・書き・そろばん
今：国語・算数など多くの教科

2 だれと学ぶか

寺子屋：年のちがう子どもと
今：同じ学年の子どもと

3 どう学ぶか

寺子屋：手本を見て一人ずつ
今：みんなで同じ内容を

4 だれが通うか

寺子屋：通う決まりはなく、通わない子もいた
今：みんなが通う（義務教育）

寺子屋が各地に広がる（幕末には農山漁村にも） → 読み書きできる人が広がる → 本を読む人がふえる → 町人の文化や新しい学問が広まる土台の一つになったと考えられる

※ 特定の寺子屋の復元ではない模式。場所や師匠によって様子は違った。今の教室も一例で、学校によって違う。